届け 世界の果てまでも

令和４年１１月８日　Ｎｏ．４４　文責　校長　飯久保一男

子どもは侮れません

教育評論家の親野智可等さんのコラムから抜粋して紹介します。

ある日の休み時間の教室で，私は４人の子どもたちのおしゃべりを聞いていました。４人とも同じ団地の子で，いつも一緒に遊んでいるので，始めは遊びのことを話題にしていましたが，途中からそれぞれの母親の話になりました。誰の母親にお菓子を出してもらったとか，仕事を手伝わされたとか，片付けのことを注意されたなど，いろいろな話が出ていました。

そのとき，Ａ君が「Ｂ君のお母さんが言うと，言うこと聞かなきゃって感じするよね。」と言いました。それを聞いたほかの子たちは「そう，そう。なんだか，そうしようっていう気になるよね。」と同意しました。Ｃ君が「おれっちの母さんだと，なんだか別にどうでもいいやって気にならない？」と言いました。すると，ほかの子たちが「うん…，そんな感じがするかも。」と同意しました。

子どもたちの会話に出てきたＢ君の母親は，どういう人だと思いますか。子どもたちが言うことを聞こうと思う母親なので，とても怖い母親ではないかと思うかもしれません。でも，実はその反対で，とても穏やかで，やさしい母親です。では，子どもたちがあまり言うことを聞く気になれないというＣ君の母親は，どういう人だと思いますか？

もうおわかりだと思いますが，とても感情的な人で，子どもたちに平気でひどい言葉をぶつける人です。Ｃ君もよく大きな声で叱られていましたし，一緒に遊んでいる子どもたちも，「また，片付けていない！あなたたちは，何回同じことを言われればできるの！」というような言葉でよく叱られていました。Ｂ君の母親は，決してこのような言い方はしません。

さらに聞いていると，どうやら４人の母親について，子どもたちは無意識のうちにランク付けをしているらしいということに気づきました。Ｂ君の母親がＩ位，続いて，Ａ君，Ｄ君，Ｃ君の母親という順位のようでした。これは，子どもたちの話を聞いているうちに私が気づいたということであり，その子たちは気づいてはいないのです。自分たちで気づいてはいないのに，４人の心の中にまったく同じ順位のランク付けがあるのです。これには私も驚きました。

他の子と比較して，ほめたり，叱ったりしないほうがいいことは何度も書かせていただいていますが，実は，**子どもも親を比較している**のです。

・ウチのお母さんは大好きだけれど，
　　〇〇さんのお母さんって，ウチのお母さんよりやさしい

・ウチのお父さんも一緒に遊んでくれるけれど，
　　□□さんのお父さんは，ウチのお父さんより楽しい遊びをしてくれる

いろいろなことを比べられているはずです。

親ばかりではありません。教師も比較されます。

…もちろん，どんな仕事であっても，能力やセンス，仕事の量や速さなどが比べられるものですし，その比較によって昇給や昇進などにつながることがあるわけですけれども。

４月の始業式で担任発表をしたあとに，子どもたちから「担任の先生は校長先生が決めるの？」「〇〇先生がよかったのにぃ」などの声が聞こえてきます。また，学習や活動が始まって少し経つと，「□組の先生は休み時間一緒に遊んでくれる」「△組の先生はおもしろい話をたくさんしてくれる」と他のクラスや学年の担任をうらやましがることもあります。さらに，「▽年のときの担任の先生は…」と，以前の担任と比べられることも多いものです。

・校長も以前の校長と比較され，前の校長はこんなだった，こういうことをしてくれたと言われます。
・「ウチのお母さんはね＊＊＊なんだよ」「ウチのお父さんは昨日＊＊＊したんだよ」と，たぶん校長に知られたら恥ずかしいと思われることを子どもたちはたくさん教えてくれます。

子どもは親や教師をよく見ています。子どもを侮っていると恥ずかしい思いをすることになります。笑い話で済んでいるうちはいいのですが…。

以前にも書きましたが，親や教師が「この子はこういう子だから」と決めつけるのは危険をはらみます。しかし，子どもを侮っていると「ウチの親はこういう親だから」「ウチの担任はこういう担任だから」と逆に子どもに決めつけられてしまいます。

子どもが親や教師を「こういう親だ」「こんな先生」と決めつけてしまうと，子どもへの接し方を反省して，対応を変えてみても，子どもは受け入れてくれません。接し方を変えてみたら，これまでと違って何だか気持ち悪いと感じられたり，きっと何かその裏があるはずだと疑いをもたれてしまったりすることもあります。

子どもに信用され，信頼される大人は，大人も子どもをリスペクトしていると思います。そうすることで，大人へのリスペクトが返ってくるのでしょう。大人が「子どもを見る目」は鍛える必要があると思いますが，社会的弱者である子どもには「自分より強いもの（大人）を見る目」がもともと備わっています。

息子が５歳になったころ，息子と私と私の妹で食事をしていたときのことです。
息子は食べ物の好き嫌いが多いほうですので，妹が冗談で
「私と好き嫌いが一緒だから，私の子どもかもしれないよ。」
と言ったのです。
息子はその妹の言葉を「本当にそうかも？」と思ってしまったようです。
１週間後に，私と私の母と息子の３人で買い物に行きました。
車の中で息子と母だけで待たせているときに，
「ばぁば，ボクは本当は誰の子なの？」
と聞いたそうです。
大人なら冗談だとわかっても，子どもは信じてしまうことがあるのですね。
家に帰ってから，私のおなかが大きかったときの写真や超音波写真，
息子の生まれたときの写真を見せたり，話をしてあげたりしました。
ありもしない出生の秘密について，１週間以上も考えていたのかなぁと思うと涙が出てきました。

ベテランの□年□組担任（＊＊歳）の〇〇教諭は子どもに年齢を聞かれ，「２８歳」と答えたようです。そのクラスの子が校長室に遊びに来て「校長先生は何歳？」と聞くので，「５９歳」と正直に答えました。その子が「〇〇先生は２８歳なんだよ」と言うので，危うく飲みかけのコーヒーを吹き出すところでした。